

## 連携先世界遺産：比叡山延暦寺 「お山」の魅力を探る・伝える

比叡山の開祖・最澄上人の魅力あるメッセージを、比叡山の風景写真とともに伝えるSNSサイト「現代に問いかける最澄さんのことば」を制作する。

### ■受講生

中村 和真（京都文教大学・総合社会学部・4年生）  
渡邊 健（立命館大学・経済学部・2年生）  
鈴木 歩（京都女子大学・文学部・2年生）

### ■担当教員

手嶋英貴（京都文教大学・総合社会学部・教授）

下記のQRコードからご覧ください。  
Instagramのアカウントを持っていない方は、LINEの友達登録から左のQRコードでアクセスできます。



### 活動目的・概要

京都ではむかしから、たんに「お山」といえば比叡山のことをさすほど、その存在は都のひとびとにとって近いものでした。法然や親鸞、栄西、道元、日蓮など、こんにちの仏教宗派の祖師たちが若き日に学んだことで「日本仏教の母山」ともよばれています。この授業では、比叡山延暦寺より提示される課題をうけて、お山がもつ魅力を現代の大学生ならではの視点から探っていきます。

今年度は、延暦寺さんから「比叡山を開創された伝教大師・最澄上人（766/767～822）の魅力を大学生の視線で探り、その発信手法を提案してほしい」という依頼を受けました。最澄は天台宗の開祖として教科書でも紹介されている有名なお坊さんですが、その人物像までは一般に広く知られていません。しかし比叡山に伝わる文化財や歴史的景観といった世界遺産の構成要素も、開祖である最澄の思想の延長線上にあります。そこで今回は、SNS「Instagram」を通じて、比叡山の風景写真とともに、今を生きる人々の心に響く最澄のメッセージを紹介するサイト『現代に問いかける最澄さんのことば』を制作しました。なおこの活動は、2022年に迎える「最澄上人1200年遠忌」に向けた記念事業のうち、始動プロジェクトの一部として位置づけられます。

### ◆主な活動

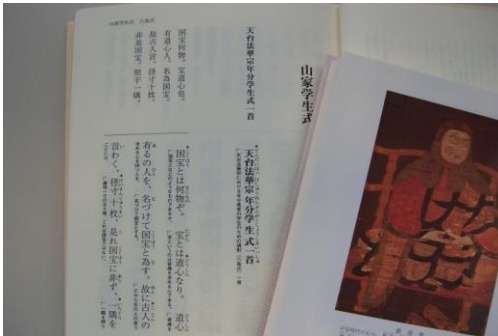


- 2018. 10. 6 プロジェクトの具体像の設定
- 2018. 10. 13 調査1日目：比叡山上見学、写真撮影
- 2018. 10. 14 調査2日目：日吉大社や里坊の見学、護摩修法への参加、写真撮影など
- 2018. 10. 21 プレゼンテーション・トレーニング
- 2018. 10. 27 調査での収集物の整理、サイト制作に向けての準備、役割決めなど

- 2018. 11. 10 サイト制作の進捗状況と改善ポイントの確認、成果発表資料の作成
- 2018. 11. 24 成果発表資料の確認、サイトの最終調整、予行演習など
- 2018. 12. 9 キャンパスプラザでの成果発表
- 2019. 1. 12 京都文教大学での成果発表

## 活動の成果

## SNSサイト「現代に問いかける最澄さんのことば」制作過程



## ① プロジェクトの具体像を描く

まず最澄上人の魅力をどう表現するかを話し合いました。その結果(1)「著作から一部の言葉を抜き出して『現代語』に訳す」、(2)「その言葉から現代に通じるメッセージをひき出し『解説文』をつける」、(3)「その言葉に合う比叡山の『風景写真』を添える」という案に決定。発信方法は「インスタグラム」とし、サイト制作に必要な情報・素材が何かを話し合いました。



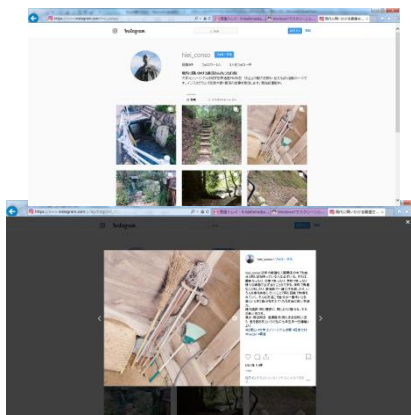
## ② 一泊二日の調査による情報収集

現地調査では、「風景写真」を収集しました。お堂や境内だけでなく、道端の石や建物の裏側など、ふだんに留めないようなものまで幅広く撮影。また総本堂にあたる根本中堂に安置された「不滅の法灯」(最澄が灯した火が1200年守られているもの)を拝観し、お護摩と呼ばれる仏事にも参加するなど、その言葉の根底にある精神を感じ取ることに努めました。



## ③ コンテンツ素材の作成など

最澄の数ある著作から、現代人の心に響くメッセージ性のある言葉をピックアップ。元の漢文を現代語に翻訳し、学生ならではの感性を活かした解説文を作成します。さらにミーティングでは各自の文章をチェックしあい、表現に磨きをかけました。その上で、それぞれの文章にマッチする写真を選定し、コンテンツ素材を揃えていきました。



## ④ SNSサイトの立ち上げ

まずインスタグラムで試作版を作り、メンバー同士で改善点を話し合いました。とくに重要性の高い「サイトのタイトル」は中々決まらず、現在も考案中。いっぽう多くの人たちに閲覧してもらう工夫として、ハッシュタグの言葉選び、QRコードの作成など多角的にアイデアを出し合い、制作に生かしました。

## 活動を振り返って

私が今回の「お山」の魅力を探る・伝える授業で感じたことは、日本はたくさんの魅力に溢れているということです。比叡山延暦寺に行かせてもらった中で、たくさんの先人の人々の思いや考えを知ることができました。それは他所にはないとても素晴らしいことだと思いました。これらの将来にも今回感じたこと学んだことを活用していきたいです。（渡邊 健）

最澄さんの「ことば」は現代の人にとっても伝わるものがあり、心に響きました。また、実際に訪れて最澄さんに触れることで、異なった視点からお山の魅力を発見することができました。（中村 和真）

講義内の比叡山研修の中で、坂本のまちなど比叡山が古来より多くの人に親しまれていたという面影を見ることができました。こうして講義で触れなければ、人々の大切にしてきたものが気づかないままでした。大切にされてきたものが今でも確かに残っているということ、守られ続けているものを知ることができました。貴重な体験ができました。（鈴木歩）

## 担当教員からのコメント

今年度の「お山の魅力」クラスは秋学期のみの開講でした。そのため、授業開始から成果発表会までおよそ2か月というインテンシブ・コースになりました。さらに、伝教大師最澄上人の魅力紹介というテーマを、世界遺産そのものである比叡山延暦寺を対象とした取組みにどう結び付けるか、教員自身も確固たる方針がない状態でのスタートでした。それでも、履修生たちはInstagramという身近なツールを活用し、最澄上人の人物と比叡山の魅力の双方を同時に伝えるというグッド・アイデアを生み出してくれました。

惜しむらくは、延暦寺の広大な境内のうち、根本中堂付近を散策・調査するにとどまったことです。本来、絶好の撮影ポイントである国宝・根本中堂は10年がかりの大修理に入っており、目下あまりインスタ映えしない状態です。もう少し調査範囲を広げておけば、より多く魅力的な写真を学生たちに撮ってもらえたと思い、反省しています。（手嶋英貴）

【Instagramで使用されなかった比叡山の写真（一部）】



比叡山麓（坂本）律院の庭園



根本中堂前の石段



## 活動資料

### 付録：「最澄さんのことば」大学生アンケート結果

調査日： 2018年11月21日（水） 調査地： 京都文教大学 弘誓館G102教室  
調査対象： 共通教育科目「キャリアと自己形成」履修生（主に1年生）  
有効回答数： 66件

設問：「現代に問いかける最澄さんのことば」の12のことばのうち、  
あなたの心に響いたものがあれば、一つだけ挙げてください。  
※ 回答者には下掲のことばのほか、SNSでそれぞれに添えられた学生の文章を読んでもらった。

結果：

1. 「国宝とされるものは何であろう？」  
原文：国宝何者（国宝とは何者ぞ）「山家学生式 六条式」より  
0件
2. 「よく行うことができ、よく言うことができる人は、国の宝である」  
原文：能行能言 国之宝也（能く行い能く言うは、国の宝なり）「山家学生式 六条式」より  
3件
3. 「相手のために行動することは、人間の徳である」  
原文：忘己利他 慈悲之極（己を忘れて他を利するは慈悲の極なり）「山家学生式 六条式」より  
12件
4. 「海の水を汲むような努力を忘れずに」  
原文：不忘汲海（海を汲むことを忘れず）「山家学生式 六条式」より  
4件
5. 「大きく、まっすぐな道を歩いて行こう」  
原文：向大直道（大直の道に向かわん）「法華秀句」より  
5件
6. 「同じ理想に、同じように憧れる。それが良い友だち」  
原文：同法同恋 是謂善友（同じき法を同じく恋う、是を善友という）  
「弘仁七年五月一日書簡」より  
7件
7. 「真剣な思いには衣食住がついてくる。衣食住を優先すると真剣な思いが消える」  
道心之中有衣食 衣食中無道心（道心の中に衣食あり、衣食の中に道心なし）  
「伝述一心戒文」より  
4件
8. 「たがいに思い、たがいに待とう」  
相思相待（相思うて、相待て）「叡山大師伝」より  
1件
9. 「外の世界を知って、自分のうちにある世界を知らないなんて」  
見外不識其内（外を見て其の内を識らずとは）  
5件
10. 「花を見て、感じ取る」  
見華取驗（華を見て驗を取る）「顕戒論 中」より  
11件
11. 「強がりを言うと、生きにくい」  
強口関道（強口道をとぎす）「顕戒論 上」より  
10件
12. 「せつかく玉を持っているのに、価値を知らず埋もれさせていて、惜しいなあ」  
噫埋玉之嘆（ああ埋玉の嘆）「顕戒論 上」より  
3点